図書だより

No.155
2023.4.27
兵庫県立神戸商業高校
図書館
新着図書紹介

図書館を利用しよう

新しいクラスには、もう慣れたでしょうか？スタートを機にこの一年何かに挑戦しよう、やり遂げようと決意したことでしょう。目標の達成にぜひ図書館を利用してください。本との出会いを、進路に向けた準備を、進学・就職試験の自習学習をサポートします。

『ハイヒールを履かない女たち―北欧・ジェンダー平等社会のつくり方』 あぶみ あさき【著】

「民主主義」という言葉は、ノルウェーでは日本以上に特別な意味をもつ。年配の男性議員ばかりの国会は、ノルウェーでは民主的とはいえない。多様な背景をもつ人々が集まる国会こそが、ノルウェー国民の全体を反映する「鏡」となる。

『魔女と過ごした七日間』 東野 圭吾【著】

ＡＩによる監視システムが強化された日本。指名手配犯捜しのスペシャリストだった元刑事が殺された。「あたしなりに推理する。その気があるなら、ついてきて」不思議な女性・円華に導かれ、父を亡くした少年の冒険が始まる。

新書 **『幻冬舎新書　なぜ理系に女性が少ないのか』** 横山 広美【著】

大学・大学院など高等教育機関における理系分野の女性学生の割合は、ＯＥＣＤ諸国で日本が最下位。女子生徒の理科・数学の成績は世界でもトップクラスなのに、なぜ理系を選択しないのか。日本の男女格差の一側面を浮彫りにして一石を投じる、注目の研究報告。

『逆転美人』 藤崎 翔【著】

飛び抜けた美人であるせいで不幸ばかりの人生を歩むシングルマザーの香織（仮名）。娘の学校の教師に襲われた事件が報道されたのを機に、手記『逆転美人』を出版したのだが、それは社会を震撼させる大事件の幕開けだった――。

『光のとこにいてね』 一穂 ミチ【著】

あの日、うらぶれた団地で出会った結珠と果遠。全く違う境遇にありながら、同じ孤独を抱える二人の少女は強く惹かれ合う。いま最注目の作家が問いかける家族、そして愛。

『地理学で読み解く流通と消費―コンビニはなぜ集中出店するのか』 福島 淑彦【著】

ユニクロはなぜ郊外から都心へ出店場所や規模を変化させたのか。身のまわりでいつの間にか起きている「街」「お店」「買い物」をめぐる変化を浮き彫りにし、その理由を地理学的な視点から明らかにします。

『行動経済学ってそういうことだったのか！
―世界一やさしい「使える経済学」５つの授業』

太宰 北斗【著】

競馬や宝くじ、ゴルフなど身近なエピソードから、消費者心理や株式投資など実践的な話題まで、人間の不合理な「お金」「感情」「時間」の使い方を紹介し、“リアルに得する経済行動”のやり方が学べます

『ポエトリー・ドッグス』　斉藤 倫【著】

「このバーでは、詩を、お出ししているのです」
今夜も、いぬのマスターのおまかせで。詩人・斉藤倫がおくる、詩といまを生きる本。

『図解まるわかり　メタバースのしくみ』

波多間 俊之【著】

2021 年 Facebook 社が突如メタバース宣言を行い、一躍メタバースという言葉がバズワード化した。今の技術での“現実的なメタバース”と、技術や法整備などの観点から“今は現実的ではないが未来のメタバース”という予測も交え、図解を交えて解説。

『彼女の思い出／逆さまの森』

サリンジャー，Ｊ．Ｄ．【著】

若い頃の留学先のウィーンを終戦後に再訪した男が行方を探す美少女、謎の女とともに行方不明になった天才詩人、少年が見てしまった悲劇の黒人ジャズ歌手。グラース家の物語の無垢、そして『ライ麦畑でつかまえて』の異議申し立て……サリンジャーが後年描いたエッセンスを湛えながら本国では出版されることのない幻の短篇集！

【その他の新着図書】

経済と”世界の動き”が見えてくる! 東大のクールな地理	伊藤 彰芳	地理
空想科学読本 = The Dream-Science Guide 1	柳田 理科雄	演劇
人に聞けない大人の言葉づかい	外山 滋比古	語学
ミライの授業	瀧本 哲史	哲学
アリアドネの弾丸	海堂 尊	文学
モルフェウスの領域	海堂 尊	文学
氷の華	天野 節子	文学
人と自然のワンダーランドへ、ようこそ	兵庫県立人と自然の博物館 編	自然科学
Re:ゼロから始める異世界生活 33	長月 達平	文学

ぶらり選書　２学年　　上村先生

『小僧の神様』

志賀 直哉著

私が幼い時、近所の公園で野球をしていると一人のおじさんが現れました。そのおじさんは自分で作った紙飛行機を輪ゴムを使って飛ばすのですが、驚くほどに高く舞い上がり１分以上降りてくることがないのです。当然野球は一時中断。その紙飛行機を追いかけてみんなで取り合ったことを覚えています。そんな紙飛行機おじさんは１週間程したらぱったりと姿を現さなくなりました。まさに神飛行機おじ様、略して神様でした。みなさんは幼い時に神様に出会ったという経験はありませんか？

この主人公の小僧はお寿司を食べたことがありません。そんなお寿司を食べるために努力を重ねます。お遣いに行っては電車賃を浮かすため遠い道のりを歩くのです。そしてやっとのことで貯めたお金でお寿司を食べに行くのですが、お金が足りないのです。そんな小僧を見ていたある人が小僧にお寿司をおごってあげるところから物語が始まります。

今思えば何のこともない出来事も幼い時にはとても不思議に思った経験が誰にもあるはずです。そんな幼い日を思い出せるような作品です。短編小説ですので比較的時間もかけずに読むことができます。勉強の合間のリフレッシュにでも読んでみてください。